

平成29年度第4回花巻市行政評価委員会（人づくり・地域づくり部会）会議録

1 開催日時

平成29年7月21日（金） 午後3時30分～午後5時15分

2 開催場所

花巻市役所3階 小会議室

3 出席者

(1) 委員 6名

堀籠部会長、高橋勉委員、高橋誠委員、久保田武司委員、久保田廣美委員、板垣委員

(2) 説明者（施策主管課） 2名

中村生涯学習課長

伊藤市民生活総合相談センター所長

(3) 事務局（施策及び事務事業評価担当課） 2名

秘書政策課：高橋課長補佐、瀬川上席主任

4 議題

市が実施した施策評価のうち、花巻市行政評価委員会の評価対象施策である「青少年の社会教育」について評価を行った。

(1) 施策主管課による説明、質疑応答

(2) 委員会の評価結果集約

5 議事録

(1) 施策主管課による説明、質疑応答【主な意見・質疑等】

高橋誠委員：青少年の定義はあるのか。

中村課長：20歳までである。成人式を含める。

高橋誠委員：青少年活動推進事業の成人式アンケートの満足度について、90%の目標達成は厳しいのではないか。青少年の価値観は多様であって良い。

久保田廣美委員：回収率や男女の違いも影響するのではないか。

中村課長：今後きちんと分析する。

板垣委員：アンケートの回収率を活動指標としているが、その意図は何か。

中村課長：様々な意見を聞きたいという意図である。

高橋誠委員：少年センター運営事業については成果指標がないが、補導される人がないのは良いことなので評価して良いのではないか。

久保田武司委員：補導員の人数、男女比、平均年齢、補導員の条件は？

伊藤所長：現在 84 人で、おおよその男女比は 5：1 くらいである。学校の先生にお願いする場合は若いですが、地域選出の場合 65 歳を超えている。補導員の資格要件は特にならない。

板垣委員：課題として補導員の高齢化や後継者の確保と記載されているが、どうやってお願いしているのか。

伊藤所長：平成 28 年度 67 人であったが活動回数が減ったこともあり、平成 29 年度は 84 人に増やしている。これは学校の先生や地域にお願いして何とか確保しているものである。防犯隊員や行政相談員などと重複して活動している方もおり、地域の中でも役割の偏りがある。

板垣委員：事務事業評価シートの成果の向上余地の欄に「警察、防犯協会等との連携」との記載があるが、すでに連携しているのではないかと。

伊藤所長：すでに連携はしている。平成 28 年度から市民生活総合相談センターに専任の職員を配置したが、それまでは活動が停滞していた。平成 28 年度に一から取り組み始めたことから、より一層の連携という意味で記載している。

高橋勉委員：今の子どもたちの中には心が弱い子、集団の中で対応できない子がいる。地域の行事などに参加すれば良いのだが、なかなか参加しない。社会教育の中でうまく育てられれば良い。

中村課長：事業を実施しても、親が動かなければ子どもの参加は見込めない。

堀籠部会長：行政の取組だけでは何ともしがたい。

久保田武司委員：青少年関係団体の支援とは具体的に何か。

中村課長：事務事業評価シートに 3 団体への補助を記載している。例えば、花巻市青少年育成市民会議では、駅での高校生のあいさつ運動、小学生対象のキャンプ等を行っている。

高橋誠委員：施策を構成する事務事業一覧にある程度書き込まないと施策評価シートを論理的に見ることができない。現状では事務事業評価シートや事業内容の詳しいチラシを見ないと、施策を構成する事務事業一覧から施策の成果指標の達成度につながらない。

高橋課長補佐：記入要領の周知については徹底する。

板垣委員：岩手県にも少年センター機能はあるのか？県の担当部署はどこか？

伊藤所長：確認する。（確認後、環境生活部若者女性協働推進室である旨回答。）

板垣委員：施策の目指す姿にある「地域社会」について、範囲の定義はあるのか

中村課長：市全体ととらえても良いものである。

板垣委員：青少年活動推進事業の事務事業評価シートにおいて、公共関与の妥当性の欄に「定住」について記載があるが、その背景は何か。

中村課長：人口減少が背景にある。花巻市に残ってもらいたい、花巻市に愛着を持ってほしいという意図がある。

板垣委員：市全体で 20 人や 30 人が定員の事業を実施することは公平性の面で適正といえるのか。子供会のリーダーを育てるような意図や地域社会に浸透していくような展望がないとならないのではないか。

中村課長：学校で参加者を選抜するものや自由に参加できるものを交えて事業展開している。

板垣委員：平成 28 年度からコミュニティ会議が生涯学習事業を実施しているが、青少年の社会教育についても小さい単位の方が良い部分もあると思われる。

中村課長：コミュニティ会議ごとの考えもある。

久保田武司委員：青少年体験学習の参加者の目標設定は何人か。募集定員は 180 人のようだが、事務事業評価シートには目標 110 人とある。5、6 割で 110 人とみたのか。

久保田廣美委員：おそらく、目標値はこの年に定めたものではなく、前年度以前に定められたものであるため、その時点での計画値であったものと思われる。

高橋勉委員：成人式について、以前は新成人が騒がしかったが、最近は大人の対応になったと感じる。自然にそうなったのか。

中村委員：以前と違い、騒ぐ人がいてもそれに便乗する人が少なくなっている。

高橋勉委員：新成人に自覚が芽生えてきたということか。

堀籠部会長：青少年活動推進事業の「こどもの集い」や「おもしろ探検隊」は、小学生を対象としているようだが、中高生向けの取組はないのか。

中村課長：高校生はキャンプなどにボランティアとして関わっている。中学生は部活などで難しい。

堀籠部会長：学校教育との兼ね合いでターゲットを絞らざるを得ないということか。ボランティア活動に参加する高校生の数を活動指標に加えられないか。大事な取組なのにおもてに見えない。

## (2) 委員会の評価結果集約【施策評価検証シート】

### ◇①施策を構成する事務事業の評価・検証について

→ 「4 施策を構成する事務事業一覧」に記載の内容からは的確かどうか判断できな

い。「青少年活動推進事業」については、事業内容（実績）を細分化して記入すべきである。

「青少年活動推進事業」の多くは民間でも実施している事業であり、市がお金と時間を割いて実施する根拠に乏しい。市の役割は、市内で実施している事業を把握してマッチングを行ったり、未だ民間が参入していない分野で新たに事業化したりすることではないか。

成果の向上を図る事業として、「生涯学習事業や先人顕彰、芸術文化、スポーツと等と連携した青少年育成」を挙げた根拠が不明であり、それに対応する具体策の記述もない。

◇②施策の成果指標及び達成状況の分析について

→ 成果指標の達成状況の分析内容の根拠が不明であり、文章のつながりが不明な部分がある。

成果指標の1つ「地域の行事やボランティア行事に青少年が参加していると思う市民の割合」については、アンケート回答者が行事に関わっていないからわからないことから、指標の妥当性に疑問がある。アンケートだけでなく、客観的な実数で把握できる指標も検討してはどうか。

◇③施策の総合的な評価について

→ 成果指標の達成状況や事務事業の検証を踏まえた記載となっていない。

施策に対する課題については、一般論の記載であり、市の課題を捉えていない。また、課題に対応した今後の方向性については具体性に乏しい。

◇④シート記載内容について

→ 「青少年活動推進事業」について、事業内容（実績）を細分化して記入すべきとしたように、事務事業評価シートを読み込まなくても施策評価シートに記載された内容で理解できるよう、シートの記載方法等について改善すべきである。